科目番号	51007	分類		履修者	高度実践看護コース	学年
科目名	臨床薬理学特論 （Clinical Pharmacology）					1 配当ｾﾒｽﾀｰ 前期
担当者	○浦中桂一　他9名	区分	必修	単位	2	時間数 カリキュラム 30 特定行為研修（実時間） 研修対応時間 31.0

授業の概要および目標	学位授与の方針と関連		
【概　要】 高度実践看護師として診断に基づく薬物療法を安全に、かつ、効果的に進めるために、薬物動態の基礎を理解する。さらに、クリティカル領域の医療現場で対応が多い事例についての薬物療法の必要性を確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因について理解し、安全な治療が進められるようにする。 【目　標】 1．人体に対する薬物動態を理解する。 2．クリティカル領域で用いる薬物療法と薬物と生体との反応機序について理解する。 3．治療のための安全な処方計画が立案できるための知識を理解する。	○	1	クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力
	○	2	クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力
	○	3	患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力
	○	4	専門職としての倫理的意思決定能力
		5	高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力
		6	臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力
	○	7	クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力

授業計画

回	内容	担当教員
	＜薬物動態の理論と演習＞	浦中 他9名
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	Ⅰ．薬物動態の理解 １）薬物の体内動態-1：吸収、体内分布 ２）薬物の体内動態-2：代謝、排泄 ３）生体内の情報伝達システム：薬物受容体 ４）薬物の体内動態に影響を与える要因 ５）薬物速度論 ６）薬理遺伝学 ７）発達段階と薬物動態：胎児、新生児・乳児、幼児・小児、高齢者 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む ８）病態時における薬物動態　　腎疾患、肝疾患とクリアランスなど	
第7回	９）薬物の相互作用（薬と食品の相互作用を含む）	
	＜主要薬物の安全管理と処方の理論と演習＞	
第8回 第9回	Ⅱ．薬物の安全管理と処方（薬事法を含む） １）薬物の適用法とその処方 ２）看護業務と薬事法	
	＜主要薬物の相互作用の理論と演習＞ Ⅲ．クリティカル領域における疾病に対して用いられる薬物の理解	
第10回	１）呼吸器系作用薬	
第11回 第12回	２）循環器系作用薬（血液含む） ・循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理 ・循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント ・病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準 （ペーパーシミュレーションを含む） ・持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整のリスク （有害事象とその対策等）	
第13回	３）中枢神経、自律神経系作用薬	
第14回	４）消化器系作用薬	
第15回	５）化学療法薬	
第16回 第17回	６）抗菌薬の使い方（2コマ）	

事前･事後学習	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。
評価の方法	第１～6回については課題レポート、他は筆記試験により評価する。 フィードバックは適宜行う。
参考図書･資料等	◎１）医療薬学Ⅰ 薬の作用と体の変化および薬理・病態・薬物治療(1),日本薬学会編,東京化学同人 ◎２）医療薬学Ⅱ 薬理・病態・薬物治療(2),日本薬学会編,東京化学同人 ◎３）医療薬学Ⅲ 薬理・病態・薬物治療(3),日本薬学会編,東京化学同人 ◎４）医療薬学Ⅳ 薬理・病態・薬物治療(4),日本薬学会編,東京化学同人 ◎５）医療薬学Ⅴ 薬物治療に役立つ情報,日本薬学会編,東京化学同人 ◎６）医療薬学Ⅵ 薬の生体内運命,日本薬学会編,東京化学同人 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。